

建築設備の「顔」 見せる意義報告

JABMEEシンポ

B M E E、野部達夫会長)は15日、東京都千代田区の連合会館で「顔」をテーマにシンポジウム「建築設備の『顔の見える化』に関する検討報告会」を開いた。建築設備技術者が施主や他業種の技術者に「顔」を見せる意義を報告した。

建築設備の「顔の見える化」に関する検討報告会で、野部達夫会長は「建築設備にかかる仕事が無機質化している。設備技術者の仕事は建築の息吹を吹き込むことであり、『顔の見える化』が果たす役割を語った」写真。

報告会では「顔の見える化」の効果や留意点、建築設備で果たす役割を紹介したほか、野部会長をコーディネーターにパネルディスカッションを実施した。

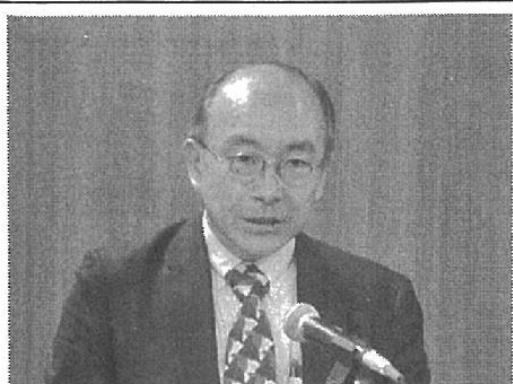


日刊建設産業新聞 2017年3月17日(金曜日) (2)

建築設備「顔の見える化」

裏側の情報発信し手応ある仕事へ

JABMEE



野部会長

建築設備技術者協会(JABMEE、野部達夫会長)は15日、東京・千代田区の連合会館で、建築設備の「顔の見える化」に関する検討報告会を開催した。一人ひとりの様々な情報を含んだ「顔」を発信することで、バックヤードで建築に息吹を吹き込む建築設備という仕事への手応えを高めるための布石とした。

JABMEEは、建築

技術教育普及センターの委託を受けて、「建築設備の『顔の見える化』に関する検討」委員会を16年9月に設置。会員企業から推薦した14人の委員で、約半年間検討を重ねた。当日は委員からの報告のほか、会場から意見を募りパネルディスカッションも行われた。

報告会の冒頭、野部会長は「個人の表情、考え方、深い努力を何か見せることができるないか」ということが委員会のテーマ。

個人情報保護の必要性が叫ばれ

ていている時代に逆行する含みもあるが、建築設備の仕事が無機質化しているよう

に感じるので、信頼や責任、仕事の手応えを感じられるのではないか」と「顔の見える化」が果たす役割を語った。写真。

報告会では「顔の見える化」の効果や留意点、建築設備で果たす役割を紹介したほか、野部会長をコーディネーターにパネルディスカッションを実施した。

JABMEEは、建築設備の「顔の見える化」についての好事例を紹介。例えば施工現場の職長であるフロアマスターの顔写真を各階に表示することで、フロアマスターの意識向上や伝達事項の周知徹底につながった。顔を見せるだけでもコミュニケーションの活性化につながった。

野部会長は「個人の表情、考え方、深い努力を何か見せるこ

とができるないか」ということが委員会のテーマ。

個人情報保護の必要性が叫ばれ

ていている時代に逆行する含みもあるが、建築設備の仕事が無機質化しているよう

に感じるので、信頼や責任、仕事の手応えを感じられるのではないか」と「顔の見える化」が果たす役割を語った。

一方でマイナス面も指摘した。個人情報の漏洩による流出への防御が必要になること、いわゆる肖像権など権利関係はもちろ

ルールづくりなどもあげられた。その上で提案したのは、「建物情報マッピングシステム」として、自分が携わった建物に関する設備の特徴や技術的情報を記録しておくもの。

報告後、パネルディス

カッショーンで野部会長

は、「今は情報ツールが

発達し、仕事の回転が速

い。人との接触も合理化

され、シンプルになつて

いる。仕事への手応えが薄くなる原因のひとつで

あり、効率化のマイナス面ではないか」と指摘し

設備技術者の顔「見える化」業界活性化へ役割や実績周知

建築設備技術者協会（JABMEE、野部達夫会長）は15日、「建築設備の『顔の見える化』に関する検討報告会」を東京都千代田区の連合会館で開いた。野部会長が委員長を兼務する「建築設備の『顔の見える化』に関する検討委員会」が半年前から議論してきた成果として、個人の顔や実績を含めたさまざまな情報をどのように形で社会に提供するべきかを委員会メンバーが報告した。



JABMEEが検討報告会

冒頭、野部
会長はあいさ

つし、「建築
分野で設備技
術者は陰の存
在だが、設備
がなければ建
築に機能を吹き込むことはできな
い。個人情報の開示にはハードルも
あるが、委員会で議論した成果を皆
さんが活用して建築設備業界の活性
化に役立てほしい」と述べた（写
真）。

同委員会は、建築設備技術者の役
割やその活動を広く周知し、社会的
な地位向上を図る方策として、建築
設備技術者の「顔の見える化」を進
める効果や問題に関する多角的な考
察を行ってきた。報告会では建築設
計事務所やゼネコン、設備メーカー
に勤務する70人余の設備技術者が集
まり、委員会メンバーと議論した。

「顔の見える化」通し働く手応え



設備技術者の手応えのなさ

「建築設備にかかる仕事が無機質化している」。趣旨説明した野部会長は、シンポジウムの開催意図をこう強調した。建築設備技術者は「建築に息吹を吹き込む」という重要な仕事だが、その内実が社会や一

ABMEE、野部達也会長は15日、東京都千代田区の連合会館で「顔」をテーマにシンポジウム「建築設備の『顔の見える化』」に関する検討報告会を開き、



野部会長

「やりがいの見える化」期待

シンポジウムでは、ゼネコン、サブコン、設計事務所などの設備技術者7人が「顔」と「仕事の手応え」をテーマに議論を深めたりと語った。

仕事の無機質化、閉塞感を打破

三義地所設計設備設計二部主幹の山本弦氏は技術者の手応えが減少した原因を技術を取り巻く「閉塞感」と指摘し、「かつては失敗しながら自分なりのやり方でまとめてきたが、今では決まり方で失敗せずにやるしかない」と分析した。「窮屈で大らかさがなくなり、間違いや失敗が決して許されないようになった」という。

JABMEEがシンポ

建築設備技術者協会(JABMEE、野部達也会長)

時流奔流

「顔の見える化」検討委員会の活動成果を発表した。

建築設備技術者の確保・育成が課題となる中で、建築設備技術者が施工や他業種の技術者に自身の「顔」を見せる意義とは何か。

般の利用者に知られる機会は少ない。また情報ツールが発達し、仕事の回転は速くなつたが、一方で「いろいろな検討を重ねるケースが減り、ルーティンの仕事が増加した。人との接触もシンプルで深い、かかわりが昔と比べて減少している」という。

仕事の手応えを取り戻す手段に期待するのが「顔」の存在だ。「顔には信頼や安心につながる独特の情報が含まれている」とし、自分自身の表情や努力、考え方を示すことが自尊心ややりがいといった体験につながると語った。

■業界のアピール不可欠

ただ、個人の顔や思想と仕事を結びつける上では、公開範囲や必要とされる情報の選定などの課題も多い。高砂熱学工業東京本店第二事業所技術一課長の鯨島武士氏は、建設工事の作業者約2500人の名前を記載した銘板を設置した「シャネル銀座ビル」の事例を挙げ、「現時点で可能な顔の見える化の到達点」と指摘した。就職活動で商社・金融・メーカーなど会社の顔である商品が明確な企業に人気が集まる状況を踏まえれば、「まずはわれわれの存在を知ってもらうことが手応えや業界のモチベーションアップにつながるのではないか」と語った。

シンポジウム後、野部会長は従来の設備技術者を「20世紀型分業制時代の部分最適化した技術者」と語り、建設産業が成熟産業となった現在は「単に配管やダクトをつなぐだけでなく、建築の利用者に直接貢献する仕事をしているという強い意識で自分たちの存在を示さなければ働く手応えや業界の活性化は得られない」とした。

やりがい向上へ技術者の存在示す

では失敗しながら自分なりのやり方でまとめてきたが、今では決まり方で失敗せずにやるしかない」と分析した。「窮屈で大らかさがなくなり、間違いや失敗が決して許されないようになった」という。設備機器が建築にとつて当たり前の技術となつたとともに設備技術者が手応えを感じられない一因とアズビルのビルシステムカンパニー・マーケティング本部長の古谷守氏は語る。問題が起きなければ設備の存在が意識されることもなく、仕事の成果を知る機会も少ない。「建築の内部が快適なのは当然であり、問題が発生しても裏方だけではなくて許されないようになつた」という。

設備機器が建築にとつて当たり前の技術となつたとともに設備技術者が手応えを感じられない一因とアズビルのビルシステムカンパニー・マーケティング本部長の古谷守氏は語る。問題が起きなければ設備の存在が意識されることもなく、仕事の成果を知る機会も少ない。「建築の内部が快適なのは

上、やりがいの向上につながるとみる。「顔の見える化がやりがいの見える化になることを期待したい」とも。